

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

部門名：カリキュラム・マネジメント実践部門
 エントリー名：福井県大野市有終南小学校 山本圭介
 平成30年度第1回次世代リーダー育成研修

活動名：チーム有南 Reborn
 ～共育・協働のための組織づくり～

解決すべき課題：平成30年度 夏までの本校の実態

- 長所
- ・様々な専門的知識を身につけた教職員が数多くいる。
 - ・経験が豊富な教職員から若手まで、バランスよく配置されている。
 - ・若手の教職員も気軽に話ができる雰囲気がある。
- 弱点
- ・目的意識をもったり、目的に向かったりするために話し合いをする場がない。
 - ・みんなで取り組むのは何か作業をするときである。
 - ・教育に関する熱い思いはあるが一人一人が別の方向を向いているように感じる。

○本校においては、まず研修で学んだ「児童の現状分析、課題整理、焦点化」及び「教職員集団の現状分析、課題整理、焦点化」が必要である。それを土台にカリキュラムの実践と、評価・改善を積み重ねること、「運営・成長・協働のマネジメント」を適切に行うことにより、長所を生かす学校に変える。

目標・方針：一つの目的に向かって話し合える教職員の集団をつくる

- ・学校教育目標を共通理解する。
- ・学校教育目標に対する教員一人一人の思いを共有する。
- ・本校の現状に対する問題意識を持つ。
- ・問題を解決するためにチーム一丸となって取り組もうとする意識を高める。
- ・様々な専門的知識やこれまでの経験を共有するための場を設ける。

活動内容：学校教育目標を共通理解し、それに対する教員一人一人の思いを共有するための活動

- 12月 教職員に対して、学校教育目標に関する研修を行う。
 - ・ブレインライティングとカテゴリーによる分類により、教職員一人ひとりが教育目標「自らをきりひらく子」を実現するために大切だと思うことを共有し、整理していった。



- 2月 校長の指導のもと次年度のスクールプラン作成に向けた活動を行う。
 - ・「チーム有南」として大切にしたいこと、教職員全体の思いを共有する場を設けた。



- 4月 スクールプランの完成
 - ・2月に出された教職員の思いを第一に考え、「豊かな心」を最重点目標とするスクールプランが完成した(図1)。
 - ・教職員一人一人の経験や指導技術を共有するシステムの充実が明記された(図2赤線部)。(図2)

○6月～ ミニ研修(30分現職教育)の実施

- ・N I Eの活用について
- ・テーパーボールや、投の運動における指導の工夫について
- ・全国学力学習状況調査の活用や、言葉を指導する際の工夫について

活動の成果

- 【本校の教職員の意見】
- スクールプラン設定の経緯について
 - ・みんなの思いが共有でき、一つになってよかった。みんなで話し合い、それぞれの思いが取り入れられていることが成果である。
 - ・子どもの実態を話し合った上で目標を設定できたことがよかった。
 - 思いが一つになったことで、新年度の実践に対して教職員全員が肯定的に捉え、行うことができた。新たに始めることや削減することに関する話し合いも、その思いを基準にすることで効率も上がり、内容も充実させることができた。
 - 専門的知識や経験を共有するための場作り(ミニ研修の設定)について
 - ・みんなが集まって時間を共有できるのがよい。
 - ・分かりやすく、少しの時間でも実施すると刺激になる。
 - ・普段の授業で取り入れられそうなものやってみようと思った。
 - ・短時間に行うことができるのがよい。
 - 指導技術や経験、時間の共有を図ることが教員同士のつながりを深めることにもつながっているようである。また、それを刺激にして、「やってみよう」という前向きな思いをもつことができた。

アピールポイント(アイデアや工夫)

- 「自由奔放、相乗り歓迎、批判厳禁」のキーワードをもとにブレインライティングで考えを出し合うことにより、経験が豊富な教職員から若手の教職員まで、分け隔てなく考えを出し合える場づくりができた。
- 校長との話し合いの機会を積極的につくることで、思いを共有した上で実践に臨むことができた。
- 短い時間での研修が多くの教職員の参加につながり、それが経験・技術・思いの共有につながった。
- 上記の取り組みがチームとしての意識の高まりにつながった。